

令和 5 年 6 月 7 日現在

機関番号：33920

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K19582

研究課題名（和文）看護職のための簡便かつ効果的な禁煙サポートツールの開発と評価

研究課題名（英文）Development and evaluation of a simple and effective smoking cessation support tool for nursing professionals

研究代表者

谷口 千枝（Taniguchi, Chie）

愛知医科大学・看護学部・教授

研究者番号：60738251

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、看護師に対する禁煙支援研修会の実施前後でアンケート調査を行い、その結果から看護師の禁煙支援に必要なツールの開発を行った。看護師らは研修3カ月後であっても、対象者の禁煙の準備性をアセスメントし、禁煙を支援し、必要時禁煙外来の紹介を行っていた。自信を高めることが看護師の禁煙支援の実施に大きく関わっていた。そのため、看護師の利用できるホームページを作成し、上記セミナーで教育した内容を掲示し、自信の強化を目指した。加えて看護師に対し模擬患者を使った教育プログラムを開発した。今回のプログラムは看護師が患者に禁煙支援を提供する頻度を増加させることに役立つと考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

喫煙は世界最大の非感染性疾患(NCDs)の原因であり、禁煙することは様々な疾患を予防するだけでなく患者のQOLの向上にも寄与する。看護師の行う禁煙支援はこれまでに米国で報告されたメタアナリシスにおいても効果があることが明らかとなっている。しかし、我々の以前の研究では、看護師らは禁煙支援に対し自信を持っていないことが多かった。本研究では、看護師らの禁煙支援への自信が高まれば、禁煙支援の実施率が上がる事が明らかになった。また自信を向上させるための禁煙支援ツールの開発を行った。このことにより、今後、看護師らが自信を持って禁煙支援するためのサポートの一助となると考えられる。

研究成果の概要（英文）：We conducted a questionnaire survey before and after a smoking cessation support workshop for nurses. Based on the results, we developed a tool of assist nurses in smoking cessation. Even 3 months after the training, the nurses assessed the readiness of the patients to quit smoking, helped them for quit smoking, and referred them to smoking cessation clinics when necessary. Increasing self-efficacy was a major factor in the nurses' implementation of smoking cessation support. We created a website which educated in the above seminar for reinforce their confidence. We considered that this program helped increase the frequency of nurses' support for smoking cessation. This study was published in Tobacco Induced Diseases 2022.

研究分野：慢性看護学

キーワード：禁煙支援 看護師 禁煙支援ツール 自己効力感

1. 研究開始当初の背景

喫煙が、様々な慢性疾患の原因となることは広く知られている。日本での喫煙による死亡者数は年間 12~13 万人と推計されており (Murakami, 2011)、成人死亡における予防可能な危険因子を比較した研究においても、喫煙は主要な危険因子の第一位であった (池田, 2011)。一方で禁煙することの疾病予防効果は高く、保健医療従事者が禁煙支援することのメリットは大きい。保険医療従事者の禁煙支援の効果に関するメタアナリシスでは、3 分以内の簡易な禁煙支援であっても 1.3 倍禁煙成功しやすい (AHRQ, 2008) ことが示されており、日々の忙しいケアの中でも喫煙者に一言禁煙支援することの意義は大きい。加えて、本年 7 月に改正健康増進法が可決され、今後病院では敷地内禁煙が余技なくされる。その中で看護職が喫煙患者や禁煙して間もない入院患者に対し、禁煙や禁煙継続のための支援をすることの重要性は高い。

看護職は、163 万 4000 人という医療職では最大の就業者人数である (厚労省調べ)。看護職の行う禁煙介入は、外来患者や入院患者、健診利用者など、幅広い患者層、様々な場で効果を示すことが報告されている (Rice, 2017)。現在喫煙者の人数 (約 2246 万人: 厚労省調べより推計) から単純に推計すると、看護職 1 人につき 14 人程度禁煙支援をすれば、全ての喫煙者に禁煙支援が行き渡ることになる。しかし、応募者のこれまでの調査からは、日本の看護職の禁煙支援の認識は低く、「禁煙しましょう」と一言だけの禁煙支援であっても実施率が低いことが示されている (谷口, 2011, 2016)。なぜ日本の看護職は禁煙支援の実施率が低いのか、本研究では、まず看護職の禁煙支援の現状とその阻害要因を調査する。加えて、その結果を踏まえて禁煙支援を学ぶサポートツールを開発する。禁煙外来専任看護師が希望する禁煙支援を学ぶサポートツールについての先行研究では、多くの看護職は「勉強会や講演会」を希望していた (谷口, 2017)。しかし、一般の看護職が簡易かつ効果的な禁煙支援を学ぶためにわざわざ講演会に足を運ぶことは難しいと考える。そこで、web サイトでいつでも見ることのできるサポートツールを開発する。

2. 研究の目的

本研究の目的は、①看護職の禁煙支援の現状とその阻害要因を明らかにすること、②①を踏まえて看護職に対する禁煙支援サポートツールを開発することである。これにより、看護職の禁煙支援の実施率の向上に資する。

3. 研究の方法

全国 13 カ所において看護師対象の 5 時間のセミナーを実施した。セミナーの構成は、喫煙の害や禁煙の効果等の喫煙に対する基礎的な知識の習得、禁煙に向かうための変容ステージ、対象者のアセスメントと介入について等の禁煙支援の基礎的知識と技術、それらを踏まえた実践の演習の 3 構成とした。その前後、3 カ月後に対象となる看護師らにアンケート調査を行った。アンケート項目は、禁煙支援の実施状況 (5A アプローチ: ask, advise, assess, assist, arrange)、セミナーの満足度、セミナー前後の禁煙支援に対する自己効力感の変化、セミナー後の禁煙指導の実施状況 (5A) 等であった。その結果を踏まえ、看護師らに対し、さらに自己効力感を強化するセミナーとして模擬患者を用いたシミュレーションセミナーを実施した。シミュレーションセミナーでは、様々な禁煙ステージの模擬患者を準備し、その患者からフィードバックをもらえる内容とした。その前後でアンケート調査を行い、受講者のセミナー前後の自己効力感や満足度を調査した。加えてこれらのセミナー内容について資料を web にて掲載した。

4. 研究成果

(1) 看護師の禁煙支援の現状と阻害要因の調査

1 年目、2 年目に関してはセミナー自体が新型コロナウイルス感染症の拡大により実施不可能となった。そのため、本研究前に実施した全国 13 カ所の看護師対象のセミナーで行ったアンケート調査より、看護師の禁煙支援の現状とその阻害要因を明らかにした。日本の禁煙支援に携わる看護師 289 名に禁煙支援セミナーを行った。その前、後、3 カ月後の禁煙支援の実施状況および認知面について現状とその要因に分けて分析した。対象者の年齢は 50 歳以上が 179 名 62.1% であった。学歴は専門学校卒が最も多く 206 名 71.3% であった。看護師経験年数は平均 21 年であった。禁煙支援の 5A の実施率は、セミナー実施前と 3 カ月後では、Assess と Assist で実施率が上昇した (必ず行う、だいたい行うと回答した者の割合; ; Assess: セミナー前 35.8%, 3 カ月後 47.8% ($p < 0.001$), Assist: セミナー前 19.4%, 3 カ月後 27.0% ($p < 0.001$))。また禁煙支援の自己効力感は、統計学的有意にセミナー後に上昇し、3 カ月後もセミナー前に比べて有意な上昇がみられた (図 1)。Assess, Assist の実施を従属変数とし、交絡因子を調整した上でロジスティック回帰分析を行った。セミナー後に禁煙支援の価値が高まったと回答した者は禁煙支援の実施率が高かった (Assess: OR: 3.05, 95%CI: 1.17-7.96, Assist: OR: 3.54 95% CI:

1. 18-10.59)。この結果から、禁煙支援のセミナーは認知面にも行動面にも効果があり、その効果は3カ月後も継続したことが明らかになった。禁煙支援の実施率向上には、禁煙支援の価値を伝えること、加えて自己効力感を高めることが重要と示唆された。

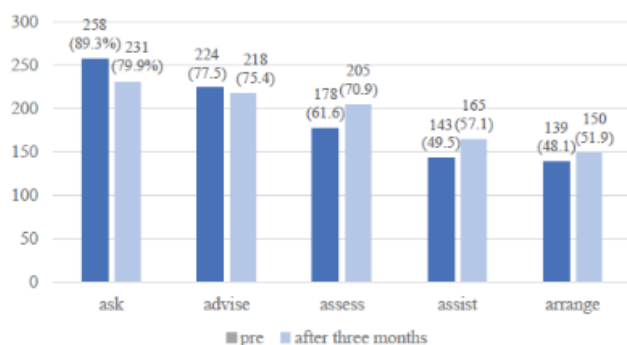


図1. セミナー前後の禁煙支援の実施状況 (5A)

(2) 看護師の禁煙支援に対する自己効力感、価値観を向上させるためのツール開発

上述した調査から、看護師の禁煙支援を促進するためには、看護師の自己効力感の向上および禁煙支援に対する価値感を高めることが重要であることが示唆された。そのため、いつでも看護師らが受講したセミナーに戻れるように、禁煙支援に役立つホームページの作成を行った。内容は、禁煙支援に用いられる行動科学的アプローチや、効果的なカウンセリング方法についてとした。また、禁煙指導に対する重要性について示したり、必要な資料がダウンロードできるようにリンクを貼るなどした。加えて看護師らの自己効力感をさらに強化するために模擬患者を使った禁煙支援のセミナーを実施した (図2)。実施前後の看護師らの禁煙支援に対する自己効力感および禁煙支援への価値観は大幅に上昇した。また、研修会後の禁煙支援の実施率の頻度も上昇した。対象者の70%以上がセミナーについてとても満足したと回答した (図3)。このことから今回のプログラムは看護師が患者に禁煙支援を提供する自信、価値観、実践率の全てに効果があったと考えられた。



図2. 模擬患者を使った禁煙支援セミナーのポスター

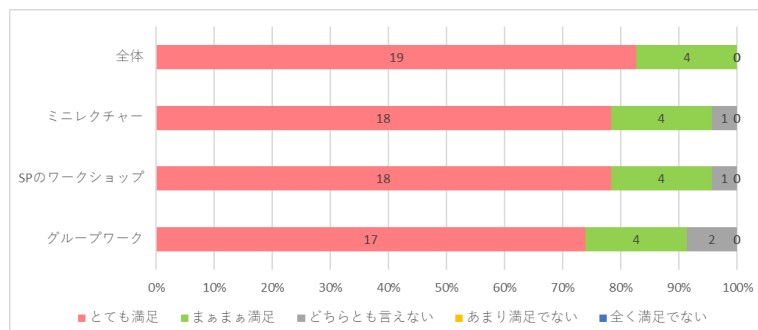


図3. 模擬患者を用いたセミナーのアンケート調査結果

看護師らが禁煙支援を積極的に行うためには、様々な工夫により禁煙支援に対する自己効力感を高めることが重要であった。自己効力感は一人で禁煙支援を実施するよりも、時に様々な人とのフィードバックの中で高まっていく。禁煙支援に携わる看護師らが集い、ディスカッションできる場を作る等、今後も継続した関わりが重要であることが考えられた。本研究結果は Tobacco Induced Diseases 2022 に掲載された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 12件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 Taniguchi C, Sezai I, Yoshimi I, Hirano T, Wakao F.	4. 巻 18
2. 論文標題 Effectiveness of a smoking cessation educational program for Japanese nurses on subsequent changes of behavior in delivering smoking cessation counseling	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Tobacco Induced Diseases	6. 最初と最後の頁 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18332/tid/144649. eCollection 2022.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sezai I, Taniguchi C, Yoshimi I, Hirano T, Wakao F.	4. 巻 17
2. 論文標題 How Self-Efficacy toward, Perceived Importance of, and Beliefs about Smoking Cessation Support Impact-Related Behaviors in Japanese Nursing Professionals	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Int J Environ Res Public Health	6. 最初と最後の頁 2304
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph19042304.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Taniguchi C, Sezai I, Yoshimi I, Hirano T, Wakao F.	4. 巻 20
2. 論文標題 Effectiveness of a smoking cessation educational program for Japanese nurses on subsequent changes of behavior in delivering smoking cessation counseling.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Tobacco Induced Diseases	6. 最初と最後の頁 19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18332/tid/144649. eCollection 2022.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka H, Hirayama A, Nagai H, Shirai C, Takahashi Y, Shinomiya H, Taniguchi C, Ogata T	4. 巻 18
2. 論文標題 Increased transmissibility of the SARS-CoV-2 Alpha variant in a Japanese population.	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 7752
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph18157752	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Sezai I, Taniguchi C, Yoshimi I, Hirano T, Wakao F	4. 巻 17
2. 論文標題 How self-efficacy toward, perceived importance of, and beliefs about smoking cessation support impact-related behaviors in Japanese nursing professionals.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 2304
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph19042304.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hida Y, Nishida T, Taniguchi C, Sakakibara H.	4. 巻 33
2. 論文標題 Association between swallowing function and oral bacterial flora in independent community-dwelling elderly	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Aging Clinical and Experiment Research	6. 最初と最後の頁 157-163
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40520-020-01521-3.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬在泉, 谷口千枝, 平野公康, 若尾文彦	4. 巻 15
2. 論文標題 全国5か所で実施した看護職に対する禁煙支援研修会の効果: 研修会前後の比較	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本禁煙学会誌	6. 最初と最後の頁 70-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Taniguchi C, Saka H, Oze I, Nakamura S, Nozaki S, Tanaka H.	4. 巻 15
2. 論文標題 Relationship between the strength of craving as assessed by the Tobacco Craving Index and success of quitting smoking in Japanese smoking cessation therapy	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0243374
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0243374. eCollection 2020.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Taniguchi Chie, Tanaka Hideo, Nakamura Sumie, Saito Sachiyo, Saka Hideo	4. 巻 17
2. 論文標題 Development of a new craving index for anticipating quitting smoking in patients who undergo the Japanese smoking cessation therapy	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Tobacco Induced Diseases	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.18332/tid/114164	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka H, Ogata T, Shibata T, Nagai H, Takahashi Y, Kinoshita M, Matsubayashi K, Hattori S, Taniguchi C.	4. 巻 19
2. 論文標題 Shorter Incubation Period among COVID-19 Cases with the BA.1 Omicron Variant	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 6330
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph19106330.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Taniguchi C, Narisada A, Tanaka H, Iida H, Iida M, Mori R, Nakayama A, Suzuki K.	4. 巻 17
2. 論文標題 Smoking cessation after cancer diagnosis reduces the risk of severe cancer pain: A longitudinal cohort study.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 e0272779
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0272779. eCollection 2022.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Iida H, Yamaguchi S, Goyagi T, Sugiyama Y, Taniguchi C, Matsubara T, Yamada N, Yonekura H, Iida M.	4. 巻 36
2. 論文標題 Consensus Statement on Smoking Cessation in Patients with Pain.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Anesthesia	6. 最初と最後の頁 671-687
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00540-022-03097-w. Epub 2022 Sep 7.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 谷口千枝
2. 発表標題 がん診断後の禁煙はがん性疼痛のリスクを軽減するか
3. 学会等名 第 15 回日本禁煙学会学術集会（大分）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷口千枝
2. 発表標題 公開レッスン 禁煙支援の実際 アフタヌーンセミナー
3. 学会等名 第 15 回日本禁煙学会学術集会（大分）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷口千枝
2. 発表標題 禁煙支援におけるナースのお仕事 市民公開講座シンポジウム
3. 学会等名 第 80 回日本公衆衛生学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 谷口千枝, 瀬在泉, 吉見逸郎, 若尾文彦
2. 発表標題 2019年度看護職向け禁煙支援研修会の教育効果 研修会前後の評価結果
3. 学会等名 第14回日本禁煙学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 谷口千枝
2. 発表標題 2018年看護職向け禁煙支援研修会における実施前後の評価
3. 学会等名 日本禁煙学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------